

2017年11月20日 全4頁

## Indicators Update

# 2017年10月貿易統計

半導体需要の高まりを背景にEU、アジア向けが輸出数量を押し上げ

経済調査部  
 研究員 廣野 洋太  
 エコノミスト 小林 俊介

### [要約]

- 2017年10月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+14.0%（市場コンセンサス：同+15.7%）と前月（同+14.1%）からプラス幅がわずかに縮小した。アジア向け輸出数量が増加したことが背景にある。10月の税関長公示レートは112.40円/ドルと、前年比で見ると9.8%の円安水準であった。
- 季節調整値で見ると、輸出金額は前月比+2.0%、輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+0.7%と2ヶ月ぶりに増加した。地域別に見ると、米国向け（同▲2.2%）は、半導体等製造装置や自動車の減少が影響したようだ。一方、全体を押し上げたのはEU向け（同+4.1%）とアジア向け（同+3.9%）であった。
- 先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続ける中、緩やかな増加基調をたどるとみている。ただし、外需に関しては下振れリスクに警戒が必要である。米国では、Fedが金融引締めを着実に実行し続けている。これに伴い、米国経済の減速や新興国市場からの資金流出を招く可能性がある。

図表1：貿易統計の概況（原系列、前年比、%）

	2017年									
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
輸出金額	11.3	12.0	7.4	14.9	9.6	13.4	18.1	14.1	14.0	
コンセンサス									15.7	
DIR予想									16.0	
輸入金額	1.3	15.9	15.2	17.9	15.5	16.3	15.3	12.1	18.9	
輸出数量	8.3	6.6	4.2	7.5	4.0	2.6	10.4	4.8	3.8	
価格	2.8	5.0	3.2	6.9	5.5	10.5	7.0	8.9	9.8	
輸入数量	▲4.3	4.2	4.9	5.4	4.2	3.2	2.4	▲0.2	3.2	
価格	5.8	11.3	9.8	11.8	10.8	12.6	12.6	12.3	15.2	
貿易収支	8,111	6,103	4,792	▲2,064	4,414	4,220	1,095	6,677	2,854	

(注1) 貿易収支は億円。

(注2) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

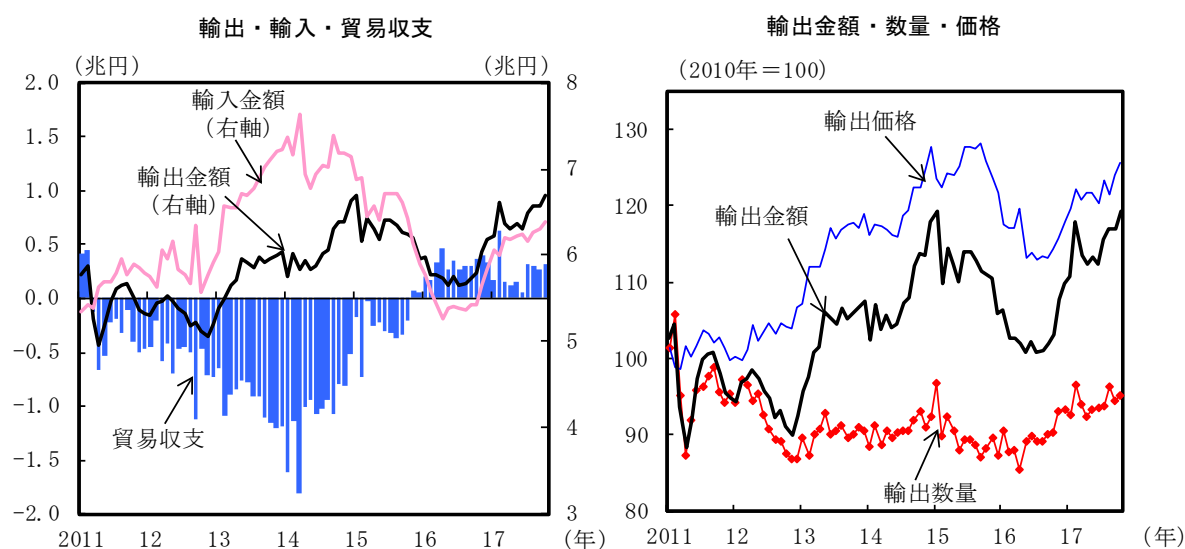
## 貿易収支は5ヶ月連続の黒字

2017年10月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+14.0%（市場コンセンサス：同+15.7%）と前月（同+14.1%）からプラス幅がわずかに縮小、輸入金額は同+18.9%と前月（同+12.1%）からプラス幅が拡大した。貿易収支は+2,854億円と5ヶ月連続の黒字となった。

輸出・輸入金額を数量要因と価格要因に分解すると、輸出金額の数量要因はアジア向けを中心に増加した結果、輸出金額の前年比プラスはほぼ前月並みとなった。輸入金額は数量要因、価格要因の両方がプラスに寄与した結果、プラス幅が拡大した。10月の税関長公示レートは112.40円/ドルと、前年比で見ると9.8%の円安水準であった。

季節調整値で見ると、輸出金額は前月比+2.0%、輸入金額は同+1.2%となった結果、貿易収支は3,229億円の黒字となり、前月（2,666億円の黒字）から黒字幅が拡大した。

図表2：輸出金額・数量・価格、貿易収支（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸出価格の季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

## 米国向け輸出数量の減少をEU、アジア向け輸出数量の増加が相殺し、全体は増加

輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+0.7%と2ヶ月ぶりに増加した。

地域別に見ると、米国向け（同▲2.2%）は、半導体等製造装置や自動車の減少が影響したようだ。自動車輸出に関しては、米国内市場の頭打ち感と比較して好調な推移を続けて来たが、ここに来て輸出の増勢も落ち着いてきている。

一方、全体を押し上げたのはEU向け（同+4.1%）とアジア向け（同+3.9%）であった。EU向けでは、半導体等製造装置の大幅な増加が全体を押し上げたようだ。また、シェアの大きい自動車輸出の増勢は頭打ちになっているものの、高水準を維持している。アジア向けにおいても半導体等製造装置が大幅に伸びており、全体を押し上げたようだ。ICは小幅に減少したが高い水準を維持しており、過度に心配する必要はないだろう。半導体等製造装置は、輸出全体で

見ても顕著に増加しており、世界的な半導体需要の高まりがうかがえる。

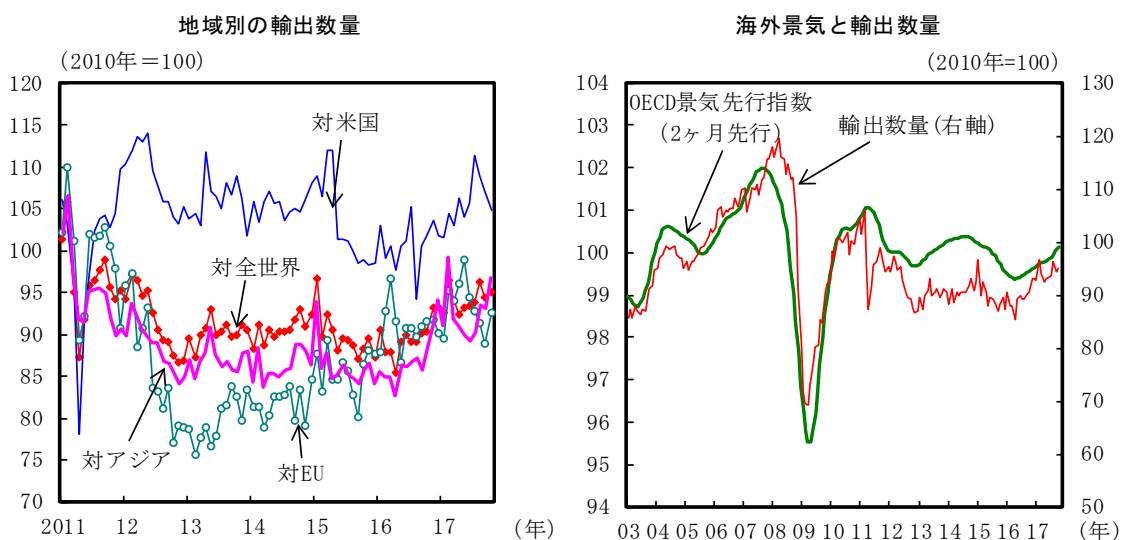
### 輸出数量の見通しは緩やかな増加基調

先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続ける中、緩やかな増加基調をたどるとみている。世界的な半導体需要の高まりを背景に、振れを伴いながらも米国やアジア向けの半導体や半導体等製造装置などの輸出も増加傾向となるだろう。

米国経済は回復基調にあり、米国向け輸出は緩やかに増加する見込みである。また、欧州経済はこれまでの景気けん引役であった個人消費に加えて、足下では設備投資などの固定資本形成も伸びており、バランスの良い景気拡大局面へ移行しているため、EU 向け輸出は拡大が見込まれる。

ただし、外需の下振れリスクには警戒が必要である。米国では、Fed が金融引締めを着実に実行し続けている。日本の米国向け輸出の主力製品である乗用車の現地需要にピークアウト感が見られる中、金融引締めが米国経済の下押し圧力となる可能性がある。また、金融引締めに伴う新興国からの資金流出の加速も危惧される。また、ECB においても来年以降の資産買い入れの圧縮（テーパリング）がすでに発表されており、同様に EU 経済の下押し圧力となりうる点に留意が必要だろう。

図表 3：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



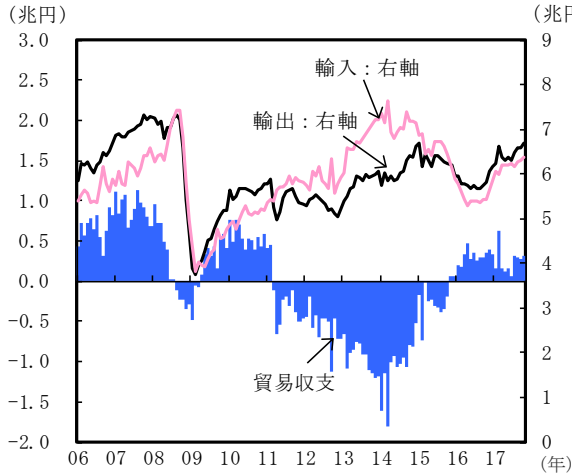
(注1) OECD景気先行指数(CLI)はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

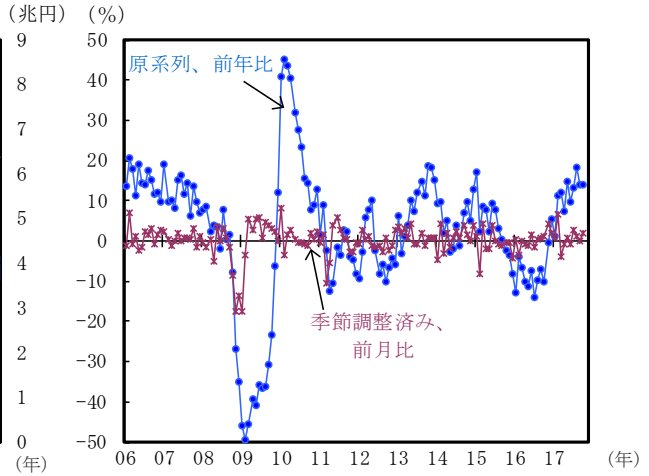
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

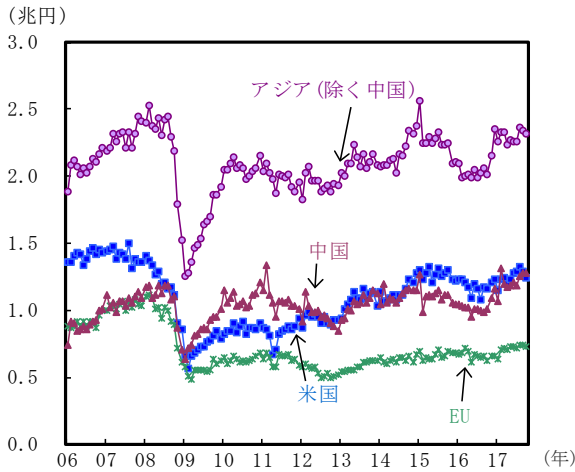


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

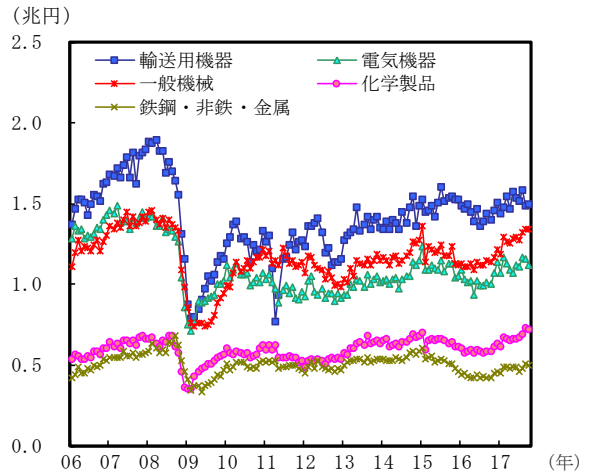


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

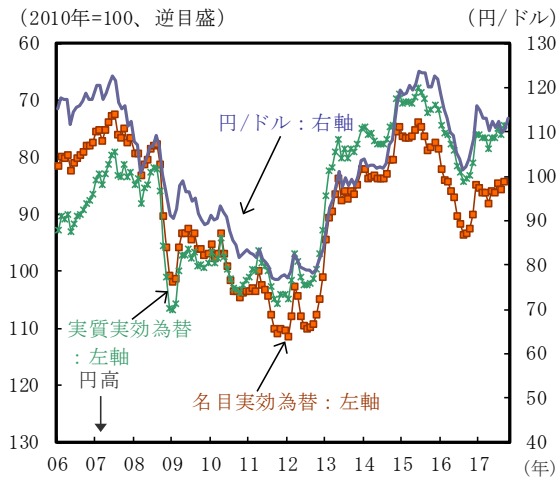


(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

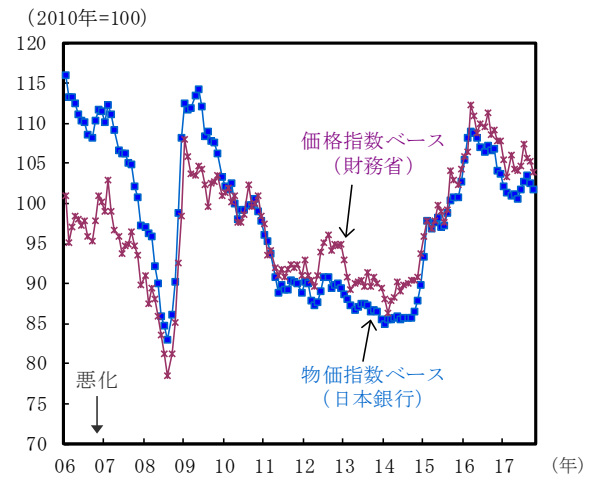
主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)



為替相場



交易条件



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。  
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成